

厚生労働省
令和4年度障害者総合福祉推進事業

ペアレント・トレーニング実施における
評価ツールの作成と活用に関する研究
報告書

令和5年3月
一般社団法人日本発達障害ネットワーク(JDDnet)

1. 事業概要

1-1 事業の目的

発達障害者支援法においては家族支援の重要性が強調されており、近年その手法として「ペアレントプログラム」や「ペアレント・トレーニング」についても広く認知されるようになってきた。また H30 年度より創設された「発達障害児者及び家族等支援事業」により、これらの家族支援プログラムの実施は制度的にも、都道府県に加えて市町村においても可能となっている。

ペアレント・トレーニングが全国で広まる一方、プログラムの質の維持は重要な課題となる。親子のニーズにプログラムの内容が合っていない、実施回数が不足している、実施する支援者の十分な研修や経験を積んでいないなど、様々な課題が散見されるようになってきた。そのため、ペアレント・トレーニングへのニーズの増加とともに、プログラムの実施に必要な条件を明示する必要がある。

令和元年度の厚生労働省障害者総合福祉推進事業「発達障害支援における家族支援プログラムの地域普及に向けたプログラム実施基準策定及び実施ガイドブックの作成に関する調査」では、地域での発達障害の家族支援システムの拡大のため、発達障害におけるペアレント・トレーニングの実態を明らかにするため、自治体、福祉事業所、医療機関向けに質問紙調査を行い、特に実践が定着している自治体、事業所、医療機関にヒアリング調査を行った。また、ペアレント・トレーニングの研究者・実践者によって構成される事業委員、事業協力委員による委員会において、ペアレント・トレーニングのプログラム内容について整理し、実施基準について検討し、基本プラットフォームとして、プログラムの核となるコアエレメント、運営の原則、実施者の専門性についてガイドブックとしてまとめた。

同事業の調査結果から、自治体、福祉事業所、医療機関でのペアレント・トレーニングについて以下のような共通のスペックが示された。それは 2-3 名のスタッフが 4-7 名程度の保護者を対象とし、1 回あたり 60~90 分程度 6~8 回程度で実施され、プログラムとしては、「行動の定義」「3つのタイプ明け」「行動のしくみ」「ほめ方・プラスの関わり方」「指示の出し方」「計画的無視」の6つの基本プラットフォームにおけるコアエレメントが包含されるというものであった。基本プラットフォームは、ペアレント・トレーニングの実施者の拠り所となる共通の土台のようなものであり、実施するプログラムを「ペアレント・トレーニング」と呼ぶためには必須となるものである。「基本プラットフォーム」は、①コアエレメント（プログラムの核となる要素）、②運営の原則、③実施者の専門性から成り立つものである。全体の課題として実施するスタッフの確保、SVの確保などが挙げられ、地域で持続可能なペアレント・トレーニングの実施運営を行うためには、エビデンスに裏付けられた基本プラットフォームに基づくプログラムや実施のノウハウを普及し、定着させていくことが必要であることが示された。

続いて令和2年度の「地域の発達障害者支援機関等で実施可能なペアレント・トレーニング実施テキストの作成」事業においては、基本プラットフォームに基づいて、テキストを

作成した。テキストは、実際の参加者が使用する参加者用テキストと、支援者が用いる支援者用テキストからなる。それぞれのテキストの内容については、昨年度推進事業の成果物であるガイドブックと基本プラットフォームを基に、事業委員会で項目を絞り込み、討議しながら作成した。これらのテキストを用いたオンラインによるペアレント・トレーニング支援者養成プログラムを実施し、参加者及びスーパーバイザーに関する調査を実施し、テキストの内容や実施の進め方等について検証した。

以上のように発達障害におけるペアレント・トレーニングの普及のために、実態調査、ガイドブック作成、基本プラットフォームの策定、支援者養成研修プログラムの開発と進めてきたが、残された課題は地域で実施するこれらの効果を評価するためのツールの開発である。令和元年度の全国自治体、障害児通所支援事業所、医療機関におけるペアレント・トレーニングの実態調査から、ペアレント・トレーニングを実施している障害児通所支援事業所において親に対する評価を事前事後に実施している事業所は約半数であったが、標準化された尺度を用いているところは 28.2%であった。一方、子どもに対する評価を事前事後に実施している事業所は 29.6%であった。事前評価によって個別の配慮の必要な親を知り、事後評価によりペアレント・トレーニングの効果を評価し、実践をより高めていくために使いやすく簡便な評価尺度を開発することはペアレント・トレーニングの普及において重要である。

今回の事業では現場の支援者がペアレント・トレーニングの前後で実施できる評価ツールを開発することを事業目的とする。

1-2 事業内容及び手法

1-2-1 予備調査項目作成

国内外のペアレント・トレーニング(以下、PT)に関する先行研究を網羅的に調査し、保護者と子どものそれぞれについて、効果検証に必要となる指標を整理した。その後、臨床心理士資格を持つ大学教員 1 名、PT 実施経験のある心理士 4 名、PT 実施経験のある教員 1 名、PT 受講経験のある親 2 名の計 8 名で、KJ 法に準じた方法により項目素案の作成を行った。項目素案をもとに PT 実施経験者 9 名で、基本プラットフォーム、精研式、奈良式、肥前式、鳥大式での PT 実施を想定し、前後で変化しやすい項目かどうかを(変化しやすいと思う/思わない)の 2 件法で評価した。最後に事業委員によって「前後で変化すると思うか」「表現は適切であるか」に対してそれぞれ 1(そう思わない)~5(そう思う)の 5 件法で評価してもらい、文言の修正が必要だと思われる項目については修正案を提示してもらい予備調査項目を作成した。

1-2-2 予備調査

上記の手続きによって選定された全 82 項目について、3~10 歳の発達障害のある子どもを持つ親の群(臨床群) 466 件、3~10 歳の定型発達の子どもの群一般群 224 件

について予備調査を行った。臨床群、一般群での群間比較、および探索的因子分析を行い最終項目を策定した。

1-2-3 本調査

3歳～12歳の子どもを持つ親（発達障害のある子どもを含む）について信頼性・妥当性の検討を行った。構成概念妥当性については既存尺度（SDQ、PNPS、CES-D）との比較を行った。また実際にPTを実施している団体に対して介入前後で評価ツールを使用してもらい実施者にアンケートを依頼し、実用性について検討した。

1-2-4 倫理面への配慮

本事業における調査についてはJDDネットにおける倫理委員会の承認を得て行った。個人情報扱うため対象者に対する人権擁護上の十分な配慮を行い、実施に対しては対象者に対する不利益、危険性の排除や説明と同意（インフォームド・コンセント）を行った。

1-3 狙いとする事業の成果

発達障害に関するPTについて、信頼性と妥当性のある評価ツールが開発される。本成果を当団体、及び関係協力団体、発達障害情報・支援センターのホームページ等へ掲載する。全国の発達障害者支援センターに成果物を配布し周知する。事業終了年度以降の支援職員研修、発達障害者地域支援マネジャー研修会、その他発達障害に係る国研修での研修で紹介、活用する。

1-4 事業委員・事業協力委員

事業委員長 市川 宏伸 一般社団法人 日本発達障害ネットワーク

事業委員（五十音順）

足立 みな美	鳥取大学大学院 医学系研究科
石井 礼花	国立精神・神経医療センター
井潤 知美	大正大学 心理社会学部
井上 雅彦	日本発達障害ネットワーク 鳥取大学 医学系研究科
伊藤 大幸	お茶の水女子大学 生活科学部 心理学科
奥野 裕子	大阪府立大学 看護研究科
黒田 美保	帝京大学文学部 心理学科
式部 陽子	帝塚山大学 心理学部
庄司 敦子	まめの木クリニック
辻井 正次	中京大学 現代社会学部 現代社会学科
中田 洋二郎	立正大学 心理学部

西牧 謙吾	国立障害者リハビリテーションセンター
原口 英之	国立精神・神経医療研究センター
日詰 正文	日本発達障害ネットワーク 国立重度知的障害者総合施設 のぞみの園
福崎 俊貴	鳥取大学 医学系研究科
古川 恵美	兵庫県立大学 看護学部
星山 麻木	明星大学教育学部 教育学科
免田 賢	佛教大学 教育学部
森 千夏	大阪大学キャンパスライフ健康支援・相談センター
山口 穂菜美	鳥取大学医学部附属病院 子どもの心の拠点病院推進室

事業事務局

鳥取大学 医学系研究科 井上雅彦研究室

1-5 事業委員会（事業委員会以外等の打合せなどは除く）

本事業は半年間の実施であり、評価ツール作成に向けて以下のように事業委員会のもとにワーキンググループを作り事業を実施した。当初は対面で討議や作業を行う予定であったが COVID-19 による緊急事態宣言などの影響により、すべてをオンラインで実施した。

7月30日	第1回ペアトレ評価ツール作成委員会
8月11日	第2回ペアトレ評価ツール作成委員会
8月27日	第3回ペアトレ評価ツール作成委員会
9月11日	項目の絞り込み会議
9月17日	第1回全体会議 ペアトレ評価ツール作成
10月4日	統計班会議
11月14日	統計班会議
12月11日	第2回全体会議 ペアトレ評価ツール作成
3月24日	第3回全体会議

2. ペアレント・トレーニング評価ツール作成

2-1 項目素案作成

臨床心理士資格を持つ大学教員 1 名、PT 実施経験のある心理士 4 名、PT 実施経験のある教員 1 名、PT 受講経験のある親 2 名の 8 名で、KJ 法に準じた方法により項目素案の作成を行った。親項目 152 項目、子項目 80 項目が生成された。

2-2 デルファイ法による内容的妥当性の検証

基本プラットフォーム、精研式、奈良式、肥前式、鳥大式での PT 実施を想定し、PT 実施経験者 9 名で、前後で変化しやすい項目かどうかを 2 件法（変化しやすいと思う/思わない）で評価した。9 名中 6 名（67%）以上が「変化しやすいと思う」と評定した項目を採用した。また、内容が重複する項目を統合した。

その結果、親項目について「養育ストレス・不安・うつ」、「QOL・エフィカシー」、「知識・対応方法・子どもの理解イメージ(障害受容)」の 3 カテゴリー 76 項目、子項目について「コミュニケーション・社会性」、「自傷・他害破壊」、「多動」、「こだわり」、「うつ・不安」の 5 カテゴリー 23 項目が選定された。

次に、PT 前後での変化や、表現の適切さについて、JDD 事業委員 21 名に評価を依頼し、17 名の委員から回答が得られた。評価では、親項目 76 項目、子項目 23 項目について、「PT 実施前後で変化すると思うか」「表現は適切であるか」に対してそれぞれ 1(そう思わない)～5(そう思う)の 5 件法で評価し、文言の修正が必要だと思われる項目については修正案の記入を求めた。

平均が 4 点未満の項目や修正案が示された項目について、削除および統合・修正を行い、親項目 58 項目、子項目 24 項目が項目原案として選定された。子どもの項目が 1 項目追加されたのは、親項目で作成された項目が子項目として内容的に適していたため、親項目から子項目に移動したためであった。

2-3 予備調査

2-3-1 調査期間

2022 年 10 月

2-3-2 調査対象者

3 歳から 10 歳までの発達障害の診断または疑いのある子どもの親（臨床群）、3 から 10 歳までの定型発達の子どもの親（一般群）を対象にオンラインで調査を実施し、計 690 名のデータを得た。対象者には事前に調査の目的や内容を文面にて説明した上で、調査への協力の同意を得た。対象者の内訳は表 1 の通り。

表1 予備調査の対象者内訳

	一般群(n=224)		臨床群(n=466)	
	n	%	n	%
親関係性				
母親	151	67.4	441	94.6
父親	73	32.6	23	4.9
その他	0	0	2	0.4
親年齢				
25-29	5	2.2	0	0
30-34	33	14.7	25	5.4
35-39	62	27.7	100	21.5
40-44	60	26.8	164	35.2
45-49	41	18.3	139	29.8
50-54	19	8.5	30	6.4
55-59	4	1.8	6	1.3
60-	0	0	1	0.2
子性別				
男子	128	57.1	358	76.8
女子	96	42.9	108	23.2
子年齢				
3	29	12.9	29	6.2
4	29	12.9	44	9.4
5	27	12.1	36	7.7
6	25	11.2	50	10.7
7	26	11.6	77	16.5
8	32	14.3	73	15.7
9	27	12.1	76	16.3
10	29	12.9	81	17.4
子どもの診断				
あり	0	0	343	73.6
疑い	22	9.8	102	21.9
なし	202	90.2	21	4.5
診断名(複数回答あり/n=445)				
知的障害	-	-	90	20.2
ASD*	-	-	212	47.6
ADHD*	-	-	146	32.8
LD*	-	-	39	8.8
DCD*	-	-	9	2.0

*ASD: 自閉症スペクトラム、ADHD: 注意欠如・多動症、LD: 限局性学習症、DCD: 発達性協調運動障害

2-3-3 調査内容

親項目 58 項目、子項目 24 項目からなる原案のそれぞれの項目について、4 件法(親項目：あてはまる、ややあてはまる、あまりあてはまらない、あてはまらない) (子項目：よくある、ときどきある、ほとんどない、まったくない/あてはまる、ややあてはまる、あまりあてはまらない、あてはまらない) で回答を求めた。教示文は以下の通りであった。

「この 2 週間の、あなたのお子さんに対する気持ちや、お子さんとの接し方についてお尋ねします。各項目について、どのくらいあてはまるか、チェックを入れてお答えください。」

「この 2 週間の、あなた自身の普段の気持ちについてお尋ねします。各項目について、どのくらいあてはまるか、チェックを入れてお答えください。」 「この 2 週間の、あなたのお子さんの普段の行動についてお尋ねします。各項目について、どのくらいの頻度で見られるか、チェックを入れてお答えください。」 「この 2 週間の、あなたのお子さんの普段の行動についてお尋ねします。各項目について、どのくらいあてはまるか、チェックを入れてお答えください。」

なお、特定の因子の項目が集中して配置されぬよう、項目順序はランダムイズした。

2-3-4 結果

臨床群 466 名、一般群 224 名のデータを得た。臨床群 466 名のデータを用い、親項目 58 項目、子項目 24 項目について、探索的因子分析を行った。結果を表 2 から表 11 に示した。

親項目については、5 因子構造を採用し、各因子をそれぞれ「ストレス」「理解・対応」「肯定的養育」「否定的養育」「サポート」と命名した。負荷量が低いもの (.35 未満または信頼性を著しく下げる)、他因子への交差負荷があるもの、項目内容のズレがあるもの、他項目との内容の重複がみられるものを削除し、44 項目を採用した。各下位尺度の内的整合性は、 $\omega = .89 \sim .92$ であり、十分な信頼性が確認された。

子項目については、3 因子構造を採用し、各因子をそれぞれ「問題行動」「従事行動」「コミュニケーション」と命名した。親項目と同様、負荷量が低いものや他因子への交差負荷があるもの等を削除し、20 項目を採用した。各下位尺度の内的整合性は $\omega = .77 \sim .85$ であり、十分な信頼性が確認された。

また、簡便な利用のための短縮版として、内容の重複が少なくなるよう留意しつつ各因子の代表的な項目を抽出し、親 25 項目、子ども 14 項目を短縮版候補項目として選定した。

表2 親項目因子分析の結果と効果量比較の結果

	Factor 1	Factor 2	Factor 3	Factor 4	Factor 5	Uniqueness
	ストレス	理解・対応	肯定的養育	否定的養育	サポート	
@10. 不安でたまらなくなることがある	1.013					0.381
@6. 孤独を感じる	0.832					0.245
@8. 自分を責めてしまう	0.819					0.473
@2. 孤立感がある	0.819				-0.301	0.255
@1. 世間から取り残されているように感じる	0.802					0.321
@12. 気が付くと涙が出ていることがある	0.7					0.592
@41. 自分の子どもを他の子どもと比べてしまう	0.683					0.647
@3. 逃げ出してしまいたいと思う	0.677					0.371
@5. この先うまくやっていく自信がない	0.669					0.296
@11. 自分は親失格だと思う	0.619					0.468
@14. 子育てがづらい	0.573		-0.315			0.319
@13. ~しなければならぬとよく考えてしまう	0.563					0.637
@34. この先の子育てに希望がもてない	0.555		-0.377			0.401
@15. 自分は子育てができていないと思う	0.496					0.48
@27. 子どものことを話すことに抵抗がある	0.402					0.764
@43. 子どもにどう対応してよいかわからない	0.346					0.522
@26. 子どもに対して否定的な見方をしてしまう	0.344			0.364		0.389
@33. 子どもの特徴について理解している		0.752				0.49
@19. 子どもの特徴に合わせた対応ができる		0.717				0.448
@20. 子どもに伝わるように指示をすることができる		0.697				0.483
@14. 子どもが適切な行動をするための工夫を行うことができる		0.683				0.5
@38. 子どもに合った環境の整え方を理解している		0.676				0.517
@29. 子どもの苦手なことを理解している		0.657				0.64
@16. 子どもへのかかわり方のポイントを説明できる		0.644				0.531
@25. 子どもが不適切な行動をする理由について説明できる		0.521				0.672
@8. 子どもにやるべきことを図示したりリスト		0.52				0.752
@9. 子どもの気持ちに気付くことができる		0.512				0.583
@12. 子どもの好きなものや活動を理解している		0.498				0.712
@32. 守りやすい約束を子どもに示すことができる		0.49				0.65
@37. 子どもの行動を増やしたい行動・減らしたい行動・許しがたい行動に分類することができる		0.489				0.769
@42. 子どもの注意を引いてから話すことができる		0.463				0.723
@18. 子どもができないときに援助することができる		0.444				0.666
@21. 子どもが喜ぶほめ方ができる		0.427	0.402			0.52
@23. 子どもの行動のよいところに気付くことができる		0.423	0.472			0.476
@35. 子どもと一緒に笑っていない			-0.82			0.346
@3. 子どもと一緒に楽しく笑い合う時間がある			0.818			0.51
@31. 子どもがかわいいと思えない			-0.709			0.427
@5. 子どもが適切な行動をしたときにはめることができる			0.545			0.613
@39. 子どものよいところを見つけすることができる			-0.512			0.679
@7. 子どもと関わる時間を意識的に作っている			0.506			0.704
@28. 子どものことを肯定的に見ることができる			0.445			0.468
@22. 子どものことを話す心が楽になる			0.422			0.743
@7. 子育てでうまくいかないことがあっても当たり前だと思う			0.329			0.871
@6. 子どもに対して怒鳴ってしまう				0.894		0.438
@2. 子どもの言動を許せずに怒ってしまう				0.872		0.344
@17. 子どもと一緒にいるとイライラしてしまう				0.681		0.378
@4. イライラする				0.612		0.376
@13. 子どもに手をあげてしまう				0.552		0.659
@10. 子どもと一緒にいるとすぐに疲れてしまう				0.433		0.538
@24. 子どものだめなところばかり目についてしまう				0.381		0.51
@15. 子育てに関する不安や悩みを話せる人がいる					0.785	0.363
@11. 周囲に自分の悩みを聞いてくれる人がいない					-0.687	0.448
@36. 子育て仲間がいる					0.579	0.585
@4. 子育てについて他の家庭の対応の仕方を聞く機会がある					0.576	0.661
@1. 子どもの相談をどこにしたらよいかわからない					-0.468	0.674
@30. 子どものことについて家族で話す機会がある					0.345	0.806
@40. 子どもの行動が気になってやるべきことに集中できない						0.672
@9. 子育てを通して自分も成長していると思う						0.716
	12	15	10	7	6	

表3 探索的因子分析 親項目第1因子

	Factor 1 ストレス	削除理由
B10. 不安でたまらなくなることがある	.964	
B6. 孤独を感じる	.868	
B2. 孤立感がある	.860	B6、B1との重複
B1. 世間から取り残されているように感じる	.843	
B8. 自分を責めてしまう	.796	
B3. 逃げ出してしまいたいと思う	.683	
B12. 気が付くと涙が出ていることがある	.678	
A41. 自分の子どもを他の子どもと比べてしまう	.665	
B5. この先うまくやっていく自信がない	.652	
B11. 自分は親失格だと思う	.611	B15との重複
B14. 子育てが辛い	.560	
A34. この先の子育てに希望がもてない	.542	F3へのcross loading
B13. ~しなければならぬとよく考えてしまう	.530	
B15. 自分は子育てができていないと思う	.480	
A27. 子どものことを話すことに抵抗がある	.390	
フルスケール項目数	12	
ω 係数	.918	
短縮版 項目数	5	
ω 係数	.822	

削除候補

短縮版候補

表4 探索的因子分析 親項目第2因子

	Factor 2 理解・対応	削除理由
A33. 子どもの特徴について理解している	.745	
A19. 子どもの特徴に合わせた対応ができる	.740	
A20. 子どもに伝わるように指示をすることができる	.708	
A14. 子どもが適切な行動をするための工夫を行うことができる	.685	
A38. 子どもに合った環境の整え方を理解している	.667	
A16. 子どもへのかかわり方のポイントを説明できる	.645	
A29. 子どもの苦手なことを理解している	.642	A33との重複
A25. 子どもが不適切な行動をする理由について説明できる	.529	
A9. 子どもの気持ちに気付くことができる	.521	
A8. 子どもにやるべきことを図示したりリスト化したり視覚的に示すことができる	.511	
A32. 守りやすい約束を子どもに示すことができる	.493	
A12. 子どもの好きなものや活動を理解している	.491	
A37. 子どもの行動を増やしたい行動・減らしたい行動・許しがたい行動に分類する	.482	
A42. 子どもの注意を引いてから話すことができる	.466	
A18. 子どもができないときに援助することができる	.461	
A21. 子どもが喜ぶほめ方ができる	.441	F3へのcross loading
A23. 子どもの行動のよいところに気付くことができる	.433	F3へのcross loading
フルスケール項目数	14	
ω 係数	.884	
短縮版 項目数	5	
ω 係数	.825	
削除候補		
短縮版候補		

表5 探索的因子分析 親項目第3因子

	Factor 3 肯定的養育	削除理由
A3. 子どもと一緒に楽しく笑い合う時間がある	.822	A35との重複
A35. 子どもと一緒に笑っていない	-.820	
A31. 子どもがかawaiiと思えない	-.737	
A5. 子どもが適切な行動をしたときにほめることができる	.531	
A39. 子どものよいところを見つけることができない	-.526	
A7. 子どもと関わる時間を意識的に作っている	.494	
A28. 子どものことを肯定的に見ることができる	.430	
A22. 子どものことを話すと心が楽になる	.415	
フルスケール項目数	6	
ω 係数	.804	
短縮版 項目数	5	
ω 係数	.800	
削除候補		
短縮版候補		

表6 探索的因子分析 親項目第4因子

	Factor 4 否定的養育	削除理由
A6. 子どもに対して怒鳴ってしまう	.888	A35との重複
A2. 子どもの言動を許せず怒ってしまう	.854	
A17. 子どもと一緒にいるとイライラしてしまう	.676	
B4. イライラする	.620	
A13. 子どもに手をあげてしまう	.547	
A10. 子どもと一緒にいるとすぐに疲れてしまう	.443	
A24. 子どものだめなところばかり目についてしまう	.381	
A26. 子どもに対して否定的な見方をしてしまう	.361	
フルスケール項目数	6	
ω 係数	.804	
短縮版 項目数	5	
ω 係数	.800	
削除候補		
短縮版候補		

表7 探索的因子分析 親項目第5因子

	Factor 5 サポート	削除理由
A15. 子育てに関する不安や悩みを話せる人がいる	.760	
A11. 周囲に自分の悩みを聞いてくれる人がいない	-.679	
A4. 子育てについて他の家庭の対応の仕方を聞く機会がある	.561	
A36. 子育て仲間がいる	.554	
A1. 子どもの相談をどこにしたらよいかわからない	-.459	
A30. 子どものことについて家族で話す機会がある	.365	
フルスケール項目数	6	
ω 係数	.804	
短縮版 項目数	5	
ω 係数	.800	
削除候補		
短縮版候補		

表8 子項目因子分析の結果と効果量比較の結果

	Factor 1	Factor 2	Factor 3	Uniqueness
	問題行動	従事行動	コミュニケーション	
@2. かんしゃく・パニックを起こす	0.733			0.484
@1. 自分の要求を通すために不適切な行動をする	0.71			0.421
@4. イライラする	0.68			0.541
@6. 注目をひくために不適切な行動をする	0.61			0.639
@16. すぐに泣いたり怒ったりする	0.603			0.64
@5. 汚いことばや暴言を使う	0.578			0.663
@10. やりたくないことがあると不適切な行動をする	0.577			0.558
@13. 他人を叩いたり蹴ったり噛んだりする	0.555			0.712
@8. 物を壊す	0.466			0.751
@9. 嘘をつく	0.455			0.746
@12. わかっていても指示に従わない	0.427	-0.378		0.543
@3. 自分の身体を傷つける行動をする	0.401			0.84
@11. 親にまわりついて離れない	0.359			0.885
@5. 大人の指示に従う		0.76		0.418
@1. 呼ばれたらすぐにそばに来る		0.749		0.53
@4. スムーズに行動を切り替える		0.634		0.557
@7. 指示に注目しない		-0.513		0.653
@3. 片付けができる		0.492		0.742
@8. 自分の要求を適切に伝えることができる			0.864	0.296
@6. 嫌なことを適切に伝えることができる			0.783	0.425
@7. 適切な方法で援助を求めることができる			0.763	0.425
@15. 指示が理解できない			-0.4	0.789
@14. 新しいことに取り組みにくい				0.922
@2. ほめられると喜ぶ				0.856
	13	5	4	

Note. Applied rotation method is promax.

表9 探索的因子分析 子項目第1因子

	Factor 1 問題行動	削除理由
C2. かんしゃく・パニックを起こす	0.733	
C1. 自分の要求を通すために不適切な行動をする	0.71	
C4. イライラする	0.68	
C6. 注目をひくために不適切な行動をする	0.61	
C16. すぐに泣いたり怒ったりする	0.603	
C5. 汚いことばや暴言を使う	0.578	
C10. やりたくないことがあると不適切な行動をする	0.577	
C13. 他人を叩いたり蹴ったり噛んだりする	0.555	
C8. 物を壊す	0.466	
C9. 嘘をつく	0.455	
C12. わかっているにもかかわらず指示に従わない	0.427	F2へのCross loading
C3. 自分の身体を傷つける行動をする	0.401	
C11. 親にまわりついて離れない	0.359	
フルスケール 項目数	12	
ω 係数	0.841	
短縮版 項目数	6	
ω 係数	0.817	
削除候補		
短縮版候補		

表 10 探索的因子分析 子項目第 2 因子

	Factor 2 従事行動	削除理由
D5. 大人の指示に従う	0.76	
D1. 呼ばれたらすぐにそばに来る	0.749	
D4. スムーズに行動を切り替える	0.634	
C7. 指示に注目しない	-0.513	
D3. 片付けができる	0.492	
フルスケール 項目数	5	
ω 係数	0.766	
短縮版 項目数	5	
ω 係数	0.766	
削除候補		
短縮版候補		

表 11 探索的因子分析 子項目第 3 因子

	Factor 3 コミュニケーション	削除理由
D8. 自分の要求を適切に伝えることができる	0.864	
D6. 嫌なことを適切に伝えることができる	0.783	
D7. 適切な方法で援助を求めることができる	0.763	
C15. 指示が理解できない	-0.4	信頼性を下げる
フルスケール 項目数	3	
ω 係数	0.845	
短縮版 項目数	3	
ω 係数	0.845	
削除候補		
短縮版候補		

2-4 本調査 1

2-4-1 調査期間

2023 年 3 月

2-4-2 調査対象者

3 歳から 12 歳までの子どもの親を対象に、オンラインで調査を実施した。対象者には事前に調査の目的や内容を文面にて説明した上で、調査への協力の同意を得た。対象者の内訳は表 12 の通り。

2-4-3 調査内容

予備調査によって選定された計 64 項目に加え、SDQ(Strength and Difficulties Questionnaire：子どもの強さと困難さアンケート)、PNPS 肯定的・否定的養育行動尺度 CES-D(The Center for Epidemiologic Studies Depression Scale：うつ病自己評価尺度)への回答を求めた。

調査会社を通じ、親性別、子性別、子年齢に偏りが出ないように、均等割付けを行い、計 1000 名のデータを得た。うち 150 名については、再検査信頼性の検討のため、回答 1 週間後に再度 64 項目への回答を求めた。

2-4-4 結果

確認的因子分析を行った。一般群と臨床群で、親項目 3 項目、子項目 2 項目について因子負荷量に群間差が見られた。一般群と臨床群の間で測定不変性（因子負荷量の等値性）が示され、いずれの対象でも得点を同じ意味合いで解釈しうることを確認された(表 13~21)。

下位尺度の内的整合性、再検査信頼性の検証を行った。いずれの下位尺度も、フルスケール、短縮版とともに十分な内的整合性と再検査信頼性を示した(表 22、23)。

因子間の相関分析の結果を表 24 に示す。フルスケールと短縮版の各因子間で、高い相関が確認された。

外部変数に対しても、理論的な予測と一致する相関や差のパターンが見られ、構成概念妥当性が確認された(表 25、26)。

表 12 対象者内訳

	n	%
親性別		
父親	500	50.0
母親	500	50.0
親年齢		
25-29	16	1.6
30-34	94	9.4
35-39	225	22.5
40-44	271	27.1
45-49	238	23.8
50-54	122	12.2
55-59	31	3.1
60-	3	0.3
子どもの診断		
あり	47	4.7
疑い	103	10.3
なし	850	85.0

表 13 各項目のモデル適合度

	CFI	RMSEA	SRMR
親項目			
個別（一般）	.861	.082	.083
個別（臨床）	.937	.058	.064
配置不変	.885	.075	.077
測定不変	.902	.068	.079
子項目			
個別（一般）	.979	.056	.043
個別（臨床）	.961	.058	.053
配置不変	.977	.056	.046
測定不変	.978	.054	.050

表 14 確認因子分析 親項目第 1 因子

	Factor 1 ストレス	削除理由
B1. 世間から取り残されているように感じる	.788	
B2. 逃げ出してしまいたいと思う	.830	
B3. この先うまくやっていく自信がない	.873	
B4. 孤独を感じる	.827	
B5. 自分を責めてしまう	.717	
B6. 不安でたまらなくなることがある	.779	
B7. 気が付くと涙が出ていることがある	.638	
B8. ～しなければならぬとよく考えてしまう	.580	
B9. 子育てが辛い	.853	
B10. 自分は子育てができていないと思う	.762	
A22. 子どものことを話すことに抵抗がある		負荷量の群間差
A33. 自分の子どもを他の子どもと比べてしまう	.477	

表 15 確認因子分析 親項目第 2 因子

	Factor 2	削除理由
	理解・対応	
A6. 子どもにやるべきことを図示したりリスト化したり視覚的に示	.466	
A7. 子どもの気持ちに気付くことができる	.758	
A10. 子どもの好きなものや活動を理解している	.675	
A12. 子どもが適切な行動をするための工夫を行うことができる	.752	
A14. 子どもへのかかわり方のポイントを説明できる	.746	
A16. 子どもができないときに援助することができる	.717	
A17. 子どもの特徴に合わせた対応ができる	.878	
A18. 子どもに伝わるように指示をすることができる	.862	
A20. 子どもが不適切な行動をする理由について説明できる	.666	
A26. 守りやすい約束を子どもに示すことができる	.731	
A27. 子どもの特徴について理解している	.795	
A30. 子どもの行動を増やしたい行動・減らしたい行動・許しがたい	.527	
A31. 子どもに合った環境の整え方を理解している	.753	
A34. 子どもの注意を引いてから話すことができる	.665	

表 16 確認因子分析 親項目第 3 因子

	Factor 3 肯定的養育	削除理由
A4. 子どもが適切な行動をしたときにほめることができる	.629	
A5. 子どもと関わる時間を意識的に作っている		負荷量の有意差
A23. 子どもを肯定的に見ることができる	.768	
A25. 子どもがかわいいと思えない	-.722	
A28. 子どもと一緒に笑っていない	-.718	
A32. 子どものよいところを見つけることができない	-.524	

表 17 確認因子分析 親項目第 4 因子

	Factor 4 否定的養育	削除理由
A2. 子どもの言動が許せず怒ってしまう	.659	
A8. 子どもと一緒にいるとすぐに疲れてしまう	.762	
A11. 子どもに手をあげてしまう	.528	
A15. 子どもと一緒にいるとイライラしてしまう	.768	
A19. 子どものだめなところばかり目についてしまう	.757	
A21. 子どもに対して否定的な見方をしてしまう	.837	

表 18 確認因子分析 親項目第 5 因子

	Factor 5 サポート	削除理由
A1. 子どもの相談をどこにしたらよいかわからない	.627	
A3. 子育てについて他の家庭の対応の仕方を聞く機会がある	-.433	
A9. 周囲に自分の悩みを聞いてくれる人がいない	.663	
A13. 子育てに関する不安や悩みを話せる人がいる	-.762	
A24. 子どものことについて家族で話す機会がある		負荷量の群間差
A29. 子育て仲間がいる	-.597	

表 19 確認因子分析 子項目第 1 因子

	Factor 1 問題行動	削除理由
C1. 自分の要求を通すために不適切な行動をする	.849	
C2. かんしゃく・パニックを起こす	.807	
C3. 自分の身体を傷つける行動をする	.626	
C4. イライラする		負荷量の群間差
C5. 汚いことばや暴言を使う	.579	
C6. 注目をひくために不適切な行動をする	.802	
C8. 物を壊す	.719	
C9. 嘘をつく	.623	
C10. やりたくないことがあると不適切な行動をする	.830	
C11. 親にまわりついて離れない	.488	
C12. 他人を叩いたり蹴ったり噛んだりする	.668	
C13. すぐに泣いたり怒ったりする	.739	

表 20 確認因子分析 子項目第 2 因子

	Factor 2 従事行動	削除理由
C7. 指示に注目しない		負荷量の群間差
D1. 呼ばれたらすぐにそばに来る	.698	
D2. 片付けができる	.700	
D3. スムーズに行動を切り替える	.814	
D4. 大人の指示に従う	.874	

表 21 確認因子分析 子項目第 3 因子

	Factor 3 コミュニケーション	削除理由
D5. 嫌なことを適切に伝えることができる	.824	
D6. 適切な方法で援助を求めることができる	.934	
D7. 自分の要求を適切に伝えることができる	.933	

表 22 内的整合性信頼性 (ω 係数)

	フルスケール			短縮版		
	項目数	一般群	臨床群	項目数	一般群	臨床群
親項目						
ストレス	11	.905	.920	5	.769	.822
理解・対応	14	.908	.884	5	.835	.825
肯定的養育	5	.703	.800			
否定的養育	6	.819	.846	5	.788	.815
サポート	5	.702	.801			
子項目						
問題行動	11	.881	.821	5	.837	.785
従事行動	4	.806	.742			
コミュニケーション	3	.877	.844			

表 23 再検査信頼性(n=150)

	フルスケール		短縮版	
	r	平均値の変化	r	平均値の変化
親項目				
ストレス	.794	-.023	.740	-.036
理解・対応	.871	-.002	.814	.004
肯定的養育	.694	-.189 *		
否定的養育	.748	.113	.760	.101
サポート	.762	.032		
子項目				
問題行動	.626	.140	.657	.083
従事行動	.624	-.160		
コミュニケーション	.574	-.221 **		

表 24 因子間相関

	ストレス	ストレス	理解・対応	理解・対応	肯定的養育	肯定的養育	否定的養育	否定的養育	サポート	問題行動	問題行動	従事行動	コミュニケーション
親項目													
ストレス													
ストレス	.956**												
理解・対応	-.201**	-.160**											
理解・対応	-.195**	-.214**	.933**										
s													
肯定的養育	-.502**	-.496**	.439**	.386**									
否定的養育	.607**	.603**	-.218**	-.229**	-.573**								
否定的養育	.596**	.599**	-.205**	-.253**	-.552**	.986**							
s													
サポート	-.352**	-.315**	.416**	.407**	.324**	-.236**	-.227**						
子項目													
問題行動	.478**	.542**	-.048	-.159**	-.342**	.515**	.532**	-.156**					
問題行動	.464**	.517**	-.053*	-.132**	-.309**	.499**	.524**	-.148**	.942**				
従事行動	-.280**	-.284**	.285**	.265**	.303**	-.343**	-.340**	.251**	-.414**	-.419**			
コミュニケーション	-.289**	-.302**	.306**	.265**	.295**	-.278**	-.266**	.242**	-.298**	-.316**	.510**		
ーション													

表 25 各因子と妥当性尺度の相関係数 (親の抑うつ、養育行動)

	ストレス	ストレス	理解・対応	理解・対応	肯定的養育	肯定的養育	否定的養育	否定的養育	サポート	問題行動	問題行動	従事行動	コミュニケーション
抑うつ	.653**	.624**	-.255**	-.242**	-.401**	.324**	.326**	-.276**	.297**	.279**	-.253**	-.228**	
養育行動 (PNPS)													
関与・見守り	-.229**	-.235**	.462**	.400**	.390**	-.217**	-.204**	.363**	-.201**	-.194**	.390**	.434**	
肯定的応答性	-.264**	-.303**	.395**	.311**	.587**	-.280**	-.263**	.245**	-.213**	-.171**	.326**	.342**	
意思の尊重	-.211**	-.227**	.284**	.246**	.317**	-.244**	-.228**	.154**	-.163**	-.150**	.258**	.293**	
過干渉	.223**	.250**	-.145**	-.136**	-.235**	.274**	.255**	-.128**	.217**	.197**	-.155**	-.101**	
非一貫性	.324**	.345**	-.281**	-.268**	-.357**	.511**	.507**	-.147**	.209**	.179**	-.142**	-.133**	
厳しい叱責・体罰	.304**	.326**	-.234**	-.233**	-.397**	.554**	.555**	-.112**	.311**	.288**	-.205**	-.180**	
肯定的養育	-.285**	-.310**	.466**	.389**	.532**	-.298**	-.279**	.314**	-.234**	-.208**	.396**	.434**	
否定的養育	.346**	.374**	-.270**	-.261**	-.403**	.548**	.540**	-.156**	.298**	.268**	-.202**	-.168**	

表 26 各因子と妥当性尺度の相関係数 (子の情緒・行動問題)

	ストレス	ストレス	理解・対応	理解・対応	肯定的養育	肯定的養育	否定的養育	否定的養育	サポート	問題行動	問題行動	従事行動	コミュニケーション
SDQ													
向社会的行動	-.151**	-.194**	.292**	.242**	.267**	-.210**	-.194**	.189**	-.238**	-.251**	.387**	.343**	
多動・不注意	.236**	.223**	-.151**	-.163**	-.200**	.327**	.327**	-.167**	.427**	.433**	-.304**	-.231**	
情緒的状態	.287**	.290**	-.163**	-.132**	-.306**	.234**	.230**	-.130**	.283**	.268**	-.206**	-.252**	
素行問題	.230**	.262**	-.205**	-.192**	-.384**	.364**	.361**	-.130**	.533**	.520**	-.422**	-.318**	
友人問題	.287**	.316**	-.181**	-.139**	-.347**	.208**	.200**	-.221**	.264**	.231**	-.247**	-.275**	

3. 評価ツールの使用に関する調査

3-1 調査時期

2022年11月～2023年3月

3-2 参加者

参加者は事業委員からの紹介によりペアレント・トレーニングを実施している自治体2箇所と親の会1箇所に協力を依頼して集まった実施者3名とペアトレに参加した親13名だった。なおアンケート調査協力に関する説明を書面にて行い、同意を得た。協力者へは謝礼として図書カードを贈呈した。

3-3 尺度

作成したペアレント・トレーニング評価ツール「子育てに関するアンケート」(以下、評価ツール)、SDQ、PNPS、CES-Dを並行してペアレント・トレーニングの前後に実施した。評価ツールについては因子分析で得られた項目数(64項目)を抽出して各因子(親5因子：ストレス、理解・対応、肯定的養育、否定的養育、サポート；子ども3因子：問題行動、従事行動、コミュニケーション)の合計得点を算出した。なお、必要な項目については逆転項目処理を行った。

また、事後調査の後、評価ツールについてのアンケートを実施者に依頼し、項目数、項目のわかりやすさ、実施のしやすさ、評価ツールの有用性について調査した。

3-4 結果

調査時期が年度の後半にあたり、ペアレント・トレーニングを終了している事業所が多く、依頼できたのは3カ所でこのうち回収できたのは1箇所であった。参加した4組の親子のプロフィールを表27に示した。参加者は母親が100%であり、平均年齢43.0歳(SD 4.69; 37-48歳)だった。子どもは男児が25.0%であり、平均年齢7.0歳(SD 0.82; 6-8歳)だった。診断があるものが2名(50.0%)であり、1名は自閉症スペクトラム(ASD)と注意欠如・多動症(ADHD)、もう1名はADHDの診断を有していた。実施されたプログラムは基本プラットフォームでありセッション数は6回だった。実施者の職種は心理士であり、経験年数は8年だった。

実施した尺度の結果を表27に示した。人数が少なかったため統計処理はできないが、事前・事後の比較において評価ツールの各因子の平均得点は親の「ストレス」、「否定的養育」、子どもの「問題行動」で減少、親の「理解・対応」、「肯定的養育」、「サポート」、子どもの「従事行動」で上昇し、改善が見られた。一方、子どもの「コミュニケーション」で平均得点がやや減少し改善が見られなかった。SDQ、PNPS、CES-Dの各尺度得点においては、4名中、SDQで2名、PNPSの肯定的養育が3名、否定的養育が3名、CES-Dでは2名が改善した。

評価ツールの実施に関するアンケート結果について2箇所から回答が得られた(表28)。

表 27 評価ツールおよび各尺度の事前・事後得点

	平均(<i>SD</i>)	
	Pre	Post
評価ツール		
親		
ストレス(-)*	30.0 (3.37)	26.5 (5.45)
理解・対応(+)*	36.3 (9.74)	45 (8.41)
肯定的養育(+)*	20.5 (2.89)	22.3 (2.87)
否定的養育(-)*	17.3 (3.50)	15.3 (3.40)
サポート(+)*	19.0 (4.69)	19.8 (4.92)
子ども		
問題行動(-)*	34.3 (5.56)	31.5 (7.85)
従事行動(+)*	10.8 (2.75)	12.5 (2.65)
コミュニケーション(+)*	9.3 (1.26)	9.0 (2.16)
SDQ		
Total(総合的困難さ)	27.0 (7.66)	26.75 (8.06)
ES(情緒の問題)	7.0 (1.63)	6.8 (1.71)
CP(行為の問題)	7.5 (2.52)	7.0 (2.16)
HI(多動/不注意)	6.8 (2.87)	7.8 (3.30)
PP(仲間関係の問題)	5.8 (2.63)	5.3 (2.99)
PB(向社会的な行動)	8.3 (2.87)	9.0 (1.63)
PNPS(標準得点)		
肯定的養育	48.3 (6.65)	52.8 (4.57)
否定的養育	62.8 (9.43)	55.8 (6.24)
CES-D	14.0 (9.09)	10.8 (6.85)

*「評価ツール」の(+)は高いほどいい、(-)は低いほどいい項目

表 28 実施者へのアンケート

	評価				
	1	2	3	4	5
項目数(少ない-多い)	0	0	1	0	1
項目のわかりやすさ(わかりにく い-わかりやすい)	0	0	0	2	0
実施のしやすさ(しにくい-しやす い)	0	0	1	1	0
評価ツールの有用性(低い-高い)	0	0	0	1	0

4. まとめ

ペアレント・トレーニングに特化した評価ツールが開発され、現場で使用できることで、支援の質を高めるとともに、参加者の受講における配慮やフォローアップに大きく寄与すると考えられる。本評価ツールは臨床群・一般群それぞれに信頼性と妥当性が示され、実際の施行においても他の尺度と同様の有効性を示した。

本評価ツールの活用については事前・事後に実施することでそれぞれ目的が異なることを理解しておく必要がある。例えば事前評価の結果は、これからペアレント・トレーニングを受講するにあたって、親の精神的な健康状態や子どもとのかかわりの特徴、子どもについては行動上の特徴を把握することで、プログラム中の提供や配慮に役立てられる。また事後評価については、事前評価と比較することで、提供したプログラムがその人にとってどのような効果をもたらしたかを知ることができる。ペアレント・トレーニングは、万能ではない。グループによるプログラムで困難であった場合、個別面接を中心としたより濃密かつ継続的なケアが必要となる場合もある。事後評価は、プログラムの効果を明らかにするとともに継続やリファーが必要な参加者を支援する手立てとなる。

今後、このツールを現場に普及するためには、評価ツールの目的、方法、結果の活用、参加者へのフィードバック方法などについてマニュアル化したり、動画による説明アイテムを作成すること、セキュリティが確保された WEB 上から利用できるように発展させていくことが望まれる。

5. 委員からのコメント

井上雅彦 鳥取大学

令和元年調査からはペアレントトレーニング（PT）の評価の実態についてもあきらかになかった。その中で特に事業所でプログラムを実施する場合、必ずしも心理師がいるわけではなく、どのような心理尺度をとるべきか迷ったり、有料の心理尺度を購入する予算も不足したりといった困難があることも伺えた。アセスメントの最も簡便なものが質問紙であるが、本ツールはそれをさらに簡便にしたものである。本ツールの特定の因子の高さは、既存の尺度と相関があることが示されており、これに関連する項目で高い得点が得られれば、例えば事前に親のメンタルヘルスについて留意する必要があることがわかるなど、プログラムの実施の際の有用な情報が得られると考える。

今後の課題として2点あげておきたい。1つはユーザーマニュアルの作成である。本ツールを適切に使用するためには、アセスメントを行う際の説明と同意の取り方、解釈の仕方、フィードバックの方法、フォローやリファールの必要な場合の方法などをわかりやすく記したマニュアルが必要である。2番目はペアトレ前後の変化の測定データの蓄積である。今回は時間的制限から十分な数の測定が困難であった。今後、様々な実施条件でのペアトレの比較を行うことで基本プラットフォームをはじめ、様々なプログラムの特性やファシリテーターの経験による違い、参加者による違いなどが明らかになってくるであろう。こうしたデータを積み重ねていくことが、よりよい支援を参加者に提供することに繋がっていくと考えられる。

石井礼花 国立精神神経医療研究センター

まず、ペアレント・トレーニングの前後での評価が簡便で無料で施行できる質問紙ができたことは、現場の施行者にとって適切にペアレント・トレーニングが行われているかがわかり、また、保護者へのフィードバックや今後のサポートを考える上で非常に役に立つものと考えられる。フィードバックに使用できる書式フォームもセットであると使用しやすいと考えられる。保護者としても、効果が数値化されることで安心感があると考えられるが、改善していない時に、どのようにサポートを継続するかについても、指針があると良いと思われる。質問紙を記入してもらったあとの、評価やフィードバックの手順の簡便化と結果の解釈をわかりやすくすることが、実際に効果的に普及していく鍵になると考えられる。

また、診断の有無による差の分析で、親の理解・対応が診断がある方が良いという結果は、診断される過程において、支援者に重要な情報を提供されたり、親ご自身で調べることができていることを示していると考えられ、大変興味深かった。

今後、有用性の検討のために、ペアレントトレーニングの前後でのデータを長期的に蓄積していき、それを分析していくことが重要と考えられる。

井潤知美 大正大学

地域でペアレント・トレーニングを活用していくためには、どのような対象に対して、どのような効果があるのかを明らかにしていくことが求められる。そのためには簡便で包括的な評価ツールは必要とされており、今回の研究の意義は大きいものと思われる。

評価ツールの妥当性・信頼性については、今回、予備調査および本調査で確認されていると思われる。今後は、短縮版をもちいて、ペアレント・トレーニングの前後での変化をみていき、さらに有用性について検討していけるものとする。

その際に、必要なデータとして、次の 2 点があるのではないかと考える。1) 臨床群の状態像をどうあらわすのか。今回は、複数回答ありで、診断ありと疑いでそれぞれ度数があげられていたが、そのデータでは臨床像がつかめないと思われた。そもそもペアレント・トレーニングがどのような対象者に有効であるのかを明らかにするためには、対象者の特徴があらわせるような指標が必要なのではないかと思う。2) ペアレント・トレーニングの定義が明記されていたが、引き続き、ある一定の基準を満たしていること（回数、プログラムの内容構成、実施者の資格など）を明記したうえで、プログラムの効果を検討していくことも求められるであろう。

奥野裕子 大阪公立大学

大変勉強になりました。ありがとうございました。医療、療育、自治体など様々な場面で、心理職以外の他職種が利用する可能性があるとする、会でも議論されていたように、PT前インタビュー評価、PTによる効果、今後の支援に向けた課題、などをアセスメントしていくための、マニュアルなど（よりわかりやすいもの）があればありがたいのではと思いました。また、基本プラットフォームでのアセスメント方法等の明確な提示により、活用の幅がより広がっていくのではと思いました。

黒田美保 帝京大学

日本の発達障害支援における問題点は、介入をするだけでその効果を客観的に検証しないことだと以前から考えていたが、最近、介入効果を調べようという気運が出てきたことは喜ばしい。この研究班では目的通り、ペアレント・トレーニングに関する使い易く妥当性と信頼性の高い評価ツールを作成することができたので、ぜひ臨床現場で広く使ってほしいと思う。実際のツールの使い方、介入前後にとることや、その結果の見方、参加者個人へのフィードバックの方法などがマニュアル化されると、心理士などの専門職のいない臨床現場にも普及しやすいと思う。特に、介入効果には個人差もあるので、効果があまり見られなかった場合のフィードバックの例などが示されていると臨床現場で使いやすいだろう。

この尺度をペアレント・トレーニングの現場で共通して使い、結果を収集しマスタデータ化すれば、ペアレント・トレーニングの効果が示されるだけでなく、こういった条件があれば、より効果的であるのか、親側の要因、子ども側の要因、環境要因なども明らかにできると考えられる。

式部陽子 帝塚山大学 心理学部

これまで PT を実施している地域では、参加した保護者の精神健康度の向上や子どもへのかかわりの変化は、「ペアレント・トレーニングの醍醐味」として、PT の主観的な効果として語られてきた。多くの地域では、限られた予算で市販の評価尺度を継続的に購入することは難しく、尺度を扱える心理職がないこともある。どのような職種の支援者でも扱うことができ、予算がかからず、客観的かつ簡便に実施できる評価ツールの開発は、PT 実施者の悲願といえる。本事業において、親と子の評価ツールが開発されたことは、今後の PT におけるエビデンスの蓄積をより確かなものにしていくだろう。

一方で、今回の研究協力を承諾いただいた保護者には非常にたくさんの評価尺度に回答いただき、その負担も大きかったと思われる。ひとりひとりの保護者が自身や子どもの様子を振り返りながら、真摯にひとつひとつの項目と向き合い、丁寧な回答をして下さったからこそ、今回の結果が得られたのだと考える。心より感謝を申し上げたい。

今後は開発された評価ツールでの PT 前後の比較による実践での検証が待っている。PT 実践者として、個々のデータの裏側にある一人一人の保護者を大切に想う気持ちを忘れず、評価ツールをさらに現場で役立つものとするために、力を尽くしていきたい。

西牧 謙吾 国立障害者リハビリテーションセンター

発達障害に関するペアレント・トレーニングについて、信頼性と妥当性のある評価ツールの開発と同時に、本成果を当団体、及び関係協力団体への啓発が重要である。今までも、国によるペアトレ推進を行ってきたが、発達障害情報・支援センターのホームページ等へ掲載、全国の発達障害者支援センターに成果物を配布などだけでは、更なるペアトレの現場での活用は難しいように思う。私自身は、初診時に、ペアトレの本質を説明し、保護者が子育てに自信を回復できるよう話をし、その後、具体的な子育て場面での問題点を一つ一つ解決するように診療している。このような、個別ニーズに対応する啓発もあると良いと思う。

臨床現場での評価尺度の活用への期待

ペアレントトレーニングの効果を評価することは、研究者だけでなく実践者にとっても重要な課題である。これまで国内外で数多くの研究が行われ、ペアレントトレーニングの効果に関するエビデンスが蓄積されてきているが、ペアレントトレーニングが誰にどのような効果をもたらすかについては、個々の研究によって、実践者、プログラム、対象者、評価指標などが異なるため一般化することは困難であり、ペアレントトレーニングが全ての親子に対して効果的であるというエビデンスは存在しない。臨床現場では、実践者がペアレントトレーニングを行いながら、対象としている個々の親子の変化と自身の実践を評価していることであろう。その際には、観察や面接、アンケートにより評価を行っていると思われるが、検証された尺度を活用することは少ないと思われる。本事業によって開発された評価尺度は、その課題に応えるための有用な手段となり得るものである。ぜひ活用してほしい。しかしながら、臨床において重要なことは、自身が実践したペアレントトレーニングの効果を評価することというよりも、自身が実践したペアレントトレーニングを受けた親とその子どもに、期待される肯定的な変化が見られているかを評価しながら、よりよい臨床を行っていくことである。決してこのことを忘れてはならない。

日誌正文 国立のぞみの園

ペアレント・トレーニングについて、どういう要素が国内でコンセンサスが得られているのかという点について、客観的データとして確認できたことによって、多くの現場で何がベーシックなのかを把握し足元がしっかりした状態で、地域に合わせたペアトレに取り組むことができるようになった点は意義は大きいと考えます。今後も定期的に同様の作業を行い、ブラッシュアップを続けて行くことを期待します。

福崎俊貴 鳥取大学

このツール作成の目的は、現場のペアトレ実施者の方に広く活用していただくものの作成ですので、使い方のマニュアル作成が非常に重要と思っています。ペアトレの効果評価に加えて、プレ点数のみでもアセスメントツールになりえるものだと思いますので、どのような結果やペアトレの効果が出たら、親御さんへのフィードバックをどのようにするのか、地域のリソースに使っていくのか等を、わかりやすくまとめられたマニュアルができるとよいと思いました。

星山麻木 明星大学教育学部

プログラムの評価ツールの開発はプログラムの質の維持のために欠かせないものであり、プログラムの有効性についてより詳細に分析できる。その整合性や信頼性のある評価ツールは今後のプログラムの質を検証するために欠かせないのである。指導者自身の自己理解やファシリテーション技術の差異、こどもの特性の差異に応じた対応、こどもの周囲の人間関係など環境の差異による対応などへの考慮が必要となるだろう。現代社会の複雑な子どもの心の対応できる親支援プログラム開発には指導者や親自身の特性理解、愛着障害の有無による行動への解釈や理解など深い人間に対する洞察力が必要とされるであろう。1つの行動からそれらを読み解ける専門性の高い指導者の養成をどのように行っていくのか今後の課題となるであろう。

免田 賢 佛教大学 教育学部

今回作成した尺度については、以下の意義を有すると考えられる。これまで様々な評価ツールを組み合わせたバッテリーを用いてプログラムの効果測定を行っていたが、報告によってアセスメントが異なるため、厳密な効果測定が難しかった。結果としてプログラム内の要因を検討すること、子ども、親、そしてその相互関係のどこに奏功するのか PT について理論化も困難であった。今回開発した尺度を用いることにより、プログラムが子どもの改善に効果的であるのか、また親の子どもに対する認知が変化したのかをダイレクトに測定することが可能であると考えられる。尺度開発に当たっては、専門家による内容的妥当性の検討に重点が置かれていることも意義が大きい。PT について経験豊富な臨床家はその妥当性について項目の吟味を繰り返し行った。そのことにより、PT による臨床的变化が生じても、従来の尺度では十分に反映できなかった主観的な変化を重視した臨床的妥当性の高い尺度になったと考えられる。今後は、多くのプログラムで数量的な検証（事前・事後の介入とコントロール群の設置）や、効果量についてのプログラム間の比較を行うなど、PT の効果に影響を及ぼす多くの要因について（子どもの要因・親の要因・プログラムの特徴等）、本尺度は大きな貢献を果たすものと期待される。

森 千夏 大阪大学キャンパスライフ健康支援・相談センター

ペアレント・トレーニング（以下、ペアトレ）を実施する際に、参加者の方一人一人に合う声かけができていないか、参加者の方々が安心して参加できる場を提供できているか、参加者の方のニーズに応えられ、有効な内容を提供できているかといったことが、いつも気になります。子どもへの支援を検討する際にアセスメントが重要なように、ご家族への支援もご家族をよく把握することが大切です。本評価ツールを用いることで、参加ご家族の状態やニーズを確認し、上記のような支援者の不安への対処をより具体的に検討することが可能となり、参加ご家族に合うよりより支援を提供できるようになるのではないかと感じています。

また、ペアトレだけで家族に必要な支援の全てをカバーできるわけではありません。本評価ツールはペアトレ終了後も、参加されたご家族に必要な支援が地域の中で提供されるよう、各家族のニーズに合わせた支援を検討する一助になるのではと期待しています。

庄司敦子 まめの木クリニック

ペアレントトレーニング（PT）の効果をはかる「共通の物差し」ができたことで、PTの普及は大きく後押しされました。信頼性と妥当性のある評価ツールでプログラムの事前事後の効果が確認できれば、PTを実施する事業者にとって自信となり、親を支援することへの動機づけを高めるでしょう。変化が認められない場合にも、プログラムの内容や運営について振り返り、専門性を高めることにつながります。評価ツールの存在が、効果だけに目を向けさせることにならないように、願わくはプログラム後のニーズの分析に役立てられるように、解釈の仕方を検討し、伝えていくことが今後さらに必要になると思われます。

本評価ツールの魅力の一つとして、親の関わりや子どもの変化が具体的に把握できることが挙げられます。クリニックでも、初診時に「すでに地域でPTを受けた」という人に出会うことが増えました。しかし「よかった」という感想は聞きますが、子どもを理解できるようになったのか、親が楽になったのか、子どもが指示に従うようになったのか等、具体的にはわからないことがよくあります。本ツールが、親子の関係（の変化）を具体的にアセスメントできるものとして、診断や治療に活かされることが期待されます。

保護者各位

子育てに関するアンケート

< はじめにお読みください >

私たちは、令和4年度厚生労働省総合福祉推進事業として、ペアレントトレーニングの前後に使える評価尺度の開発の委託を受けました。ペアレントトレーニングを全国に普及し、かつその質を担保するためには信頼性の高いアセスメントツールが必要です。みなさま方におかれましてはお忙しい中恐縮ですが、本ツール開発の項目選定のための調査にご協力いただきますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

調査は無記名で、データはすべて集計され統計処理されますのでプライバシーが外部に漏れることはございません。回答時間は10~20分程度かと思えます。

我が国のペアレントトレーニング普及のためにぜひとも多くの方にご協力いただきますよう重ねてお願い申し上げます。

対象：3歳から12歳までの発達障害の診断もしくは疑いのある子どもの親御様

以上の説明をお読みになり、研究への参加にご同意いただけるか否かについてお答えください。

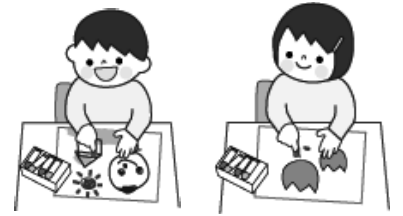
- 研究への参加に同意する
- 研究への参加に同意しない

このアンケートでは、あなたとお子さんについてお尋ねします。お子さんに関する質問については、3歳から12歳のお子さんお一人を想定し、ご回答ください。

あなたのニックネーム：

※ ニックネームは、事後アンケートでも使用します。
メモを取るなどして忘れないようにお願いいたします。

回答日：_____月_____日



【1】

この2週間の、あなたのお子さんに対する気持ちや、お子さんとの接し方についてお尋ねします。各項目について、どのくらいあてはまるか、チェックを入れてお答えください。

この2週間の、あなたのお子さんに対する気持ちや、お子さんとの接し方についてお尋ねします。各項目について、どのくらいあてはまるか、チェックを入れてお答えください。	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまる	あてはまらない
1 子どもの相談をどこにしたらよいかわからない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2 子どもの言動を許せずに怒ってしまう	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3 子育てについて他の家庭の対応の仕方を聞く機会がある	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4 子どもが適切な行動をしたときにほめることができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5 子どもと関わる時間を意識的に作っている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6 子どもにやるべきことを図示したりリスト化したり視覚的に示すことができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7 子どもの気持ちに気付くことができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8 子どもと一緒にいるとすぐに疲れてしまう	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9 周囲に自分の悩みを聞いてくれる人がいない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
10 子どもの好きなものや活動を理解している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
11 子どもに手をあげてしまう	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
12 子どもが適切な行動をするための工夫を行うことができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
13 子育てに関する不安や悩みを話せる人がいる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
14 子どもへのかかわり方のポイントを説明できる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
15 子どもと一緒にいるとイライラしてしまう	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

この2週間の、あなたのお子さんに対する気持ちや、お子さんとの接し方についてお尋ねします。各項目について、どのくらいあてはまるか、チェックを入れてお答えください。	あてはまる	ややあてはまる	あてはまる	あてはまる
16 子どもができないときに援助することができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
17 子どもの特徴に合わせた対応ができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
18 子どもに伝わるように指示をすることができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
19 子どものだめなところばかり目についてしまう	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
20 子どもが不適切な行動をする理由について説明できる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
21 子どもに対して否定的な見方をしてしまう	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
22 子どものことを話すことに抵抗がある	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
23 子どものことを肯定的に見ることができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
24 子どものことについて家族で話す機会がある	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
25 子どもがかawaiiと思えない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
26 守りやすい約束を子どもに示すことができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
27 子どもの特徴について理解している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
28 子どもと一緒に笑っていない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
29 子育て仲間がいる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
30 子どもの行動を増やしたい行動・減らしたい行動・許しがたい行動に分類することができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
31 子どもに合った環境の整え方を理解している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
32 子どものおいところを見つけることができない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
33 自分の子どもを他の子どもと比べてしまう	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
34 子どもの注意を引いてから話すことができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

【2】 この2週間の、あなた自身の普段の気持ちについてお尋ねします。各項目について、どのくらいあてはまるか、チェックを入れてお答えください。

この2週間の、あなた自身の普段の気持ちについてお尋ねします。各項目について、どのくらいあてはまるか、チェックを入れてお答えください。	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
1 世間から取り残されているように感じる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2 逃げ出してみたいと思う	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3 この先うまくやっていく自信がない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4 孤独を感じる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5 自分を責めてしまう	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6 不安でたまらなくなることがある	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7 気が付くと涙が出ていることがある	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8 ~しなければならぬとよく考えてしまう	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9 子育てが辛い	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
10 自分は子育てができていないと思う	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

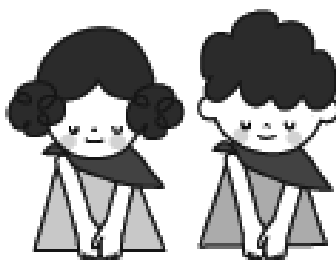
【3】 この2週間の、あなたのお子さんの普段の行動についてお尋ねします。各項目について、どのくらいの頻度で見られるか、チェックを入れてお答えください。

この2週間の、あなたのお子さんの普段の行動についてお尋ねします。各項目について、どのくらいの頻度で見られるか、チェックを入れてお答えください。	よくある	時々ある	ほとんどない	まったくない
1 自分の要求を通すために不適切な行動をする	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2 かんしゃく・パニックを起こす	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3 自分の身体を傷つける行動をする	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4 イライラする	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5 汚いことばや暴言を使う	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6 注目をひくために不適切な行動をする	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7 指示に注目しない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8 物を壊す	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9 嘘をつく	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
10 やりたくないことがあると不適切な行動をする	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
11 親にまわりついて離れない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
12 他の人を叩いたり蹴ったり噛んだりする	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
13 すぐに泣いたり怒ったりする	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

【4】この2週間の、あなたのお子さんの普段の行動についてお尋ねします。各項目について、どのくらいあてはまるか、チェックを入れてお答えください。

この2週間の、あなたのお子さんの普段の行動についてお尋ねします。各項目について、どのくらいあてはまるか、チェックを入れてお答えください。	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
1 呼ばれたらすぐにそばに来る	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2 片付けができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3 スムーズに行動を切り替える	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4 大人の指示に従う	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5 嫌なことを適切に伝えることができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6 適切な方法で援助を求めることができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7 自分の要求を適切に伝えることができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

これで、すべてのアンケートが終了しました。
回答し忘れないかどうか、もう一度お確かめください。



ご協力くださり誠にありがとうございました。

<短縮版>

【1】この2週間の、あなたのお子さんに対する気持ちや、お子さんとの接し方についてお尋ねします。各項目について、どのくらいあてはまるか、チェックを入れてお答えください。

この2週間の、あなたのお子さんに対する気持ちや、お子さんとの接し方についてお尋ねします。各項目について、どのくらいあてはまるか、チェックを入れてお答えください。	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまる	あてはまらない
1 子どもの相談をどこにしたらよいかわからない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2 子どもの言動を許せずに怒ってしまう	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3 子育てについて他の家庭の対応の仕方を聞く機会がある	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4 子どもが適切な行動をしたときにほめることができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5 子どもにやるべきことを図示したりリスト化したり視覚的に示すことができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6 子どもの気持ちに気付くことができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7 子どもの好きなものや活動を理解している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8 子どもに手をあげてしまう	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9 子育てに関する不安や悩みを話せる人がいる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
10 子どもへのかかわり方のポイントを説明できる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
11 子どもと一緒にいるとイライラしてしまう	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
12 子どもの特徴に合わせた対応ができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
13 子どもに伝わるように指示をすることができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
14 子どもに対して否定的な見方をしてしまう	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
15 子どもの特徴について理解している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
16 子どものことを話すことに抵抗がある	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

この2週間の、あなたのお子さんに対する気持ちや、お子さんとの接し方についてお尋ねします。各項目について、どのくらいあてはまるか、チェックを入れてお答えください。	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
17 子どものことを肯定的に見ることができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
18 守りやすい約束を子どもに示すことができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
19 子どもと一緒に笑っていない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
20 子どもに合った環境の整え方を理解している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
21 自分の子どもを他の子どもと比べてしまう	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

【2】この2週間の、あなた自身の普段の気持ちについてお尋ねします。各項目について、どのくらいあてはまるか、チェックを入れてお答えください。

この2週間の、あなた自身の普段の気持ちについてお尋ねします。各項目について、どのくらいあてはまるか、チェックを入れてお答えください。	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
1 孤独を感じる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2 不安でたまらなくなることがある	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3 気が付くと涙が出ていることがある	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4 子育てが辛い	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

→ 次のページにお進みください。

【3】 この 2 週間の、あなたのお子さんの普段の行動についてお尋ねします。各項目について、どのくらいの頻度で見られるか、チェックを入れてお答えください。

この 2 週間の、あなたのお子さんの普段の行動についてお尋ねします。各項目について、どのくらいの頻度で見られるか、チェックを入れてお答えください。	よくある	ときどきある	ほとんどない	まったくない
1 自分の要求を通すために不適切な行動をする	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2 かんしゃく・パニックを起こす	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3 イライラする	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4 指示に注目しない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5 やりたくないことがあると不適切な行動をする	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6 他人を叩いたり蹴ったり噛んだりする	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7 すぐに泣いたり怒ったりする	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

【4】 この 2 週間の、あなたのお子さんの普段の行動についてお尋ねします。各項目について、どのくらいあてはまるか、チェックを入れてお答えください。

この 2 週間の、あなたのお子さんの普段の行動についてお尋ねします。各項目について、どのくらいあてはまるか、チェックを入れてお答えください。	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
1 呼ばれたらすぐにそばに来る	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2 片付けができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3 スムーズに行動を切り替える	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4 大人の指示に従う	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5 嫌なことを適切に伝えることができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6 適切な方法で援助を求めることができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7 自分の要求を適切に伝えることができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>